

地域へ出て往診や地域訪問も実施！～大船渡支援～

大船渡支援の様子を紹介します。午前8時、仮診療所を設置している赤崎の漁村センターへ。赤崎地区は津波により、一部の高台を除いて壊滅状態となっています。避難所となっている漁村センターは、海沿いですが高台にあり津波の被害を免れています。掃除や会場のセッティング、簡単な打ち合わせをし、チームに分かれて行動をしています。

①診療所チーム

漁村センター内の診療所で診療を行っています。漁村センター内は、日中、高齢者と子どもの生活の場になっているため、その方々の受診が多く、周囲の家が残った方も受診に訪れています。今は主に風邪・花粉症などが多くなっています。

②各部屋訪問チーム

センター内の各部屋を周り、皆さんに声掛けをしながら、血圧測定、マッサージ、足浴。必要であれば、県立病院への受診の付き添いなども行っています。避難所内の衛生環境の改善も図っています。

③往診チーム

担当地域内（赤崎、蛸ノ裏）の各避難所へ往診に出かけています。

④地域訪問チーム

ローラー作戦で、地域訪問を行っています。津波に備えて高いところに住んでいる人が対象になっています。血圧を測りながら、地域のニーズを引き出し、行政に繋いでいく役割も持ちます。訪問すると、精神的に落ち込んでいてメンタル面で注意が必要な方もいます。また、「助けたいのに助けられなかつた」という人たちに、心のケアの必要性を感じ、行政に伝えています。地域によって、大丈夫というところもあれば、足腰が痛い、頭痛がすると訴える人もいます。



新入職員も参加！大通り街頭募金行動を実施！！

東日本大震災から1ヶ月が経った4月11日、岩手県共同対策本部が実施した大通り野村證券前での街頭募金行動に、医事課から塚本理恵主任、新入職員の藤澤詩織さん、伊藤勝太さん、県連の吉田博事務局長の4名が参加しました。

30分間の行動で、1万3,012円の募金が集りました。沿岸で被災し、盛岡に身を寄せている方、夫が亡くなった、家族・親戚が亡くなったという声も聞かれました。

